

1. ウイルスってなに、菌とウイルスとの違いは？

→ ウイルスとは遺伝子が入ったタンパク質の塊です。菌は単細胞生物であり、単独で増殖（細胞分裂）しますが、ウイルスは遺伝子しか持っていないので単独では増殖できません。

2. ウイルスはどのように増殖するの？

→ ウイルスは他の細胞に入り込み宿主細胞の力を借りて自らの遺伝子を複製させて増殖します。増殖後、細胞から遊離し別の細胞に入り込み、また増殖するというサイクルを繰り返します。単体では増殖できないので、必ずその他生物へ寄生します。

3. 床材に抗ウイルス性があるとどんなメリットがあるのですか？

→ ウイルスの感染経路には飛沫感染（空気感染）接触を伴う感染があります。人から放出されたウイルスは、そのまま直接体内に入ったり、床や壁に付着した後に人の手や足などに付着し生活環境内に広がっていき、（経口などで）体内に入って感染・発症します。接触を伴う感染の場合、人の活動範囲の中で手に触れることができる範囲の対策が重要です。床にウイルスが付着した際、少しでも多くのウイルスを不活性化できればウイルスが拡散する量を減らすことができます。結果、感染リスクを低下させることが可能です。特に小さい子供たち（幼稚園児・保育園児・小学校低学年）は、床の上に寝転がったり、這いつくばったりすることが多く、床面にウイルスがあると感染する可能性が高くなるといえます。また、ウイルスに感染した人がおう吐した場合、通常はおう吐物を取り除いた後、アルコールや次亜塩素酸で消毒を行いますが、この消毒が不完全な場合、床面に残ったウイルスで感染してしまう可能性が残ります。床材を抗ウイルス化することでこのような感染リスクを低減させる効果が見込まれます。

4. 床材で感染対策ができるのでしょうか？

→ 完全な感染対策はできません。あくまでも感染のリスクを抑制することが期待できます。おう吐などにより床や壁にウイルスが付着した場合は、消毒液でしっかり拭取ることがまずは重要です。床材は補助的なものであり、感染リスクの拡大抑止の一助となると理解してください。

5. 床に落ちたウイルスは再び舞い上がるのではないですか？

→ くしゃみなどウイルスを含んだ飛沫粒子は1～2mの範囲で床や壁に落下します。飛沫粒子は主に水分が含まれるので、水分が無くなると風圧などでウイルスは再び舞い上がる可能性があります。

※東京都健康安全研究センターの報告では、乾燥したウイルスが飛沫より3時間経過後、床面より160cmの高さまで舞い上がるとの事例報告もあります。

飛沫粒子の水分が無くなるまでの時間がおおよそ2時間とされています。一方で、エミネンスフロアの抗ウイルス性は1時間で機能を発揮します。長尺シート表面に飛沫粒子が付着し、乾燥後にウイルスが舞い上がることがあっても、感染リスクを低減させる効果が見込まれます。

6. 99%以上の抗ウイルス効果を分かりやすく教えてください。

→ 例えば抗ウイルス性試験に用いたウイルス液の感染価は約3,150万です。このウイルス液を抗ウイルスシートの表面に1時間接触させた後に回収するとウイルス液の感染価は31以下になっておりました。これはウイルスの力を99%以上下げているといえます。

※ウイルス感染価とは…ウイルスが感染する力の指標のこと。

ウイルス感染価が高い＝ウイルスの感染リスクが高いということですが、言い換えれば「感染力を持つウイルスの数が多い」ということ。

7. どんな抗ウイルス剤を使用していますか？安全なものですか？

→ 抗ウイルス剤は特別な薬品ではなく、一定条件下において食品向けの梱包材関連に使用が認められている成分です。

8. 抗ウイルス剤はウイルスを殺すのですか？

→ 一般的にウイルスは自分では増殖できないので生き物には該当しません。よってウイルスを「殺す」という表現は的確ではありません。ウイルスが増える過程を大まかに表すと、「細胞に侵入する」→「細胞の中で増える」→「細胞から出る」で、この過程を繰り返すことでウイルス自体は増殖します。例えばインフルエンザウイルスに対して抗ウイルス剤は、①この「細胞に侵入する・細胞から出る」過程にて作用し侵入できなくすること、②抗ウイルス剤がウイルス自体を破壊することが見込まれていますがそのメカニズムは完全解明されていない為、本来の機能を失わせると考えてください。

9. どんなウイルスで試験をしたのですか？

→ 鳥インフルエンザウイルス、鳥コロナウイルス（SARS 類似）、人インフルエンザウイルス、ネコカリシウイルス（ノロウイルス代替）で試験を行いました。

10. 次亜塩素酸ナトリウム、アルコールで消毒した場合と比べて抗ウイルス効果はどうですか？

→ 速効性の観点では次亜塩素酸ナトリウム、アルコール > 抗ウイルス性の長尺シート です。
ノロウイルスに対して0.02%の次亜塩素酸ナトリウムは約10分でウイルス感染価を99.99%以下にできますが、反面、皮膚刺激性や衣類の脱色効果があるため使用場所が制限されることもあります。せっかく殺菌消毒してもウイルスの拭き残しが発生するかもしれません。もちろん、次亜塩素酸ナトリウムと抗ウイルス性シートを組み合わせることで効果が期待できます。

11. 次亜塩素酸ナトリウムやアルコールで拭いても変色しませんか？

→ 次亜塩素酸ナトリウムや通常使われる消毒用アルコールでは、変色や材質変化は起こりません。

12. どれくらい抗ウイルス効果は持続するの？

→ 表面のコーティング層に抗ウイルス剤を配合していますので、「抗ウイルス耐久年数 = ノンワックス耐久年数」となります。
しかしながら、掃除をせずに表面に汚れが堆積するとウイルスと床材の接触を阻害しますので効果は低くなります。ノンワックス機能性と同様に日々のメンテナンスは実施してください。メーカーとしての推奨メンテナンス方法は、週1回以上の水拭き実施です。
なお、ワックスを塗布しても抗ウイルス効果が阻害されますので、抗ウイルス性が必要な際はノンワックスでお使いください。

13. 溶接棒は専用のものでしょうか？

→ 溶接棒は汚れ防止を向上させた配合処方としていますが、シートの表面のコーティングと比べると耐汚染性は劣ります。日常メンテナンスをしっかりと行ってください。

14. 床材、腰壁、壁紙を抗ウイルス化することで効果はどうなりますか？

→ 生活範囲の中で接触する可能性がある部分の仕上材を抗ウイルス化することで、つまり腰壁（タフ腰壁シート）、壁紙（トルアレ）と組み合わせることで、感染リスクを低減させる効果が見込まれます。